前口上 7

序章 9
扇子職人になる／玉三郎丈からの注文

第一章 江戸職人のデザイン1　技法と技術 17
「のぞき」――どれだけ描かないか／空き地のつくり方／
柄つけの技法／柄の描き方／職人の道具1「さしがね」／
職人の幾何学／職人の道具2「ぶんまわし」

第二章 江戸職人のデザイン2　見立て 45
「見立て」という文化／玉三郎丈の扇子／
一つの物語がデザインに変わる／材料を生かす／なんでも見立てる／

扇子のデザインあれこれ／江戸が情報の発信地／江戸の二大悪所／元をアレンジする／文字のデザイン文化／裏に何が隠されているか／羽織紐も見立ての文化

第三章　職人の発想 …… 93

日本独特の形に描く／色でどう見せるか／色の名前からイメージする／感動を共有できるデザイン／知識がデザインを広げる／デザインで納得させる／イメージをどうつくるか／デザインになる要素を探り出す／舞台の扇子

第四章　デザインで遊ぶ …… 123

お年玉袋、祝儀袋の世界／会触れ／祝儀袋、千社札の交換会／手ぬぐいあわせ

第五章　職人の美意識——141
今の徒弟制度／親方と弟子／職人の正装／履き物の美意識／和服のこだわり／志ん朝師匠の扇子／お約束
おわりに——161
何にこだわるか／デザインに必要なのはロマン
後口上——168
あとがき——170